

あ と が き

☀ 今日(9月15日)は夕刊の天気図はさすがに「秋」の気配です。台湾辺りに熱低の文字がありますが、南の方には、台風の卵も見当たりません。やたらに暑かった夏もやっと終わりでしょうか。この夏、私が住んでいる千葉では、ほとんど夕立らしい夕立がなかったように思います。甲子園の優勝旗が津軽海峡を渡りました。まさか「地球温暖化」の前兆ではありますまいが、そのうち、雪国というハンデは昔語りになるかもしれません。

★ 毎号、活動の中心を職場か自宅に代えた方をお願いして、近況などを書いていただいています。前は村田徹さん、今回は岡本浩一さんです。とくに岡本さんにはこちらの不手際でお頼みしたのが遅くなったにもかかわらず、快くお引き受けいただいたことを有難く思います。岡本さんは、核データ活動に直接関係のない内容でと仰っていますが、知的好奇心を刺激するエッセイは大歓迎です。

♣ 好奇心と言えば、「巨大数」仮説についての投稿を読んで、とても勉強になりました。以前読んだUCバークレイ校の物理学演習の本に、「素電荷 e が2倍になったら、安定な最も重い原子核はどのようになるか」と言う問題がありました。クーロンエネルギー項と表面エネルギー項を比較して答を出すわけですが、物理定数が「絶対不変」などという固定観念にちくりと刺激を与える憎い問題ではありませんか。

♣ 村田徹さんから、一向に掲載されないテクニカルコメント欄に注文が来ました。趣旨は、待ちの姿勢ではなく、データ評価などに役立つ手持ちのノウハウを紹介し合うよう働きかけたらどうか、というものです。頁数・テーマなど継続できるようにしなくてはなりません。今回の編集委員会ではまともならず、次回まで持ち越しになりました。

④ 次号の「会議のトピックス」は、米ロスアラモス近くのサンタフェで開かれる核データ国際会議の特集です。ご期待ください。「話題・解説」には、新しい原子質量・J-PARCによる核データ研究などを予定しています。なお次号の原稿締め切りは来る2005年1月11日です。

(喜多尾憲助)

kitaoken@aol.com

核データニュース編集委員会

中川庸雄(委員長、原研)、井頭政之(東工大)、岩本 修(原研)、長谷川明(原研)、
山野直樹(東工大)、吉田 正(武蔵工大)、[オブザーバ] 喜多尾憲助、[編集] 石橋貞子